



火を焚く術を考える 熊谷ふみを

I think about a method to set fire to. | Fumiwo Kumagai

にんげんが名付けけふより春の蠅

薄氷やとりに死者には忘れられ

見張台こぼれし春の水輪かな

哭くといふ字は男なり春の宵

啓蟄や国文法をおろそかに

ひとりづつ春満月をよこぎりぬ

物怖ぢも物音もせで桜葉に

香水を隠しことばのやうにふる

点さぬば虫の匂ひのほうたるよ

蟻地獄大きな家の小さき戸

無頼とは長生きのこと梅雨夕焼

一生の激しきときの涼み台

丸洗ひふるさとのなき夏帽子

どこからか虫湧いてくる色暦

流星や石に打たるる日の来るか

茜空秋草の毘仕掛けよう

法師蟬火種香炉の中にあり

枯いろのおんぶぼつたに地球かな

体温をわけ合うて桜紅葉かな

流木に一對はなし冬汀

けふといふ日を糺さるる大海鼠

枯野にて火を焚く術を考へる

冬銀河吃水線を傾けぬ

氷張る水の用意をしてをりぬ

据うるとは植うることなり霜の墓

組板の上の鉛筆去年今年

雪が来てふるさとのある夜のやうに

養老や金魚の泳ぐ冬の水



加はりぬ一寒林の連携へ

新年といふ鬼がくる鬼が来る

 **Tokyo Mnemosyne** 東京ムネモシュネ

Tokyo Mnemosyne **e-books**

<http://haikustock.com>

A4用紙に印刷して2つ折りにします。右端をホッチキス留めするとA5判の小句集に仕上がります。  
個人で楽しむ範囲でのダウンロード、印刷以外の無断転載・コピー・流用は一切禁止します。